

## NEWS RELEASE

2019年1月31日  
株式会社三菱総合研究所

## 2018年10-12月期 GDP 1次速報予測

株式会社三菱総合研究所(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:森崎孝)は、内閣府より2月14日(木)に公表予定の2018年10-12月期のGDP速報(1次QE)について予測を行いました。

2018年10-12月期の実質GDPは、季節調整済前期比+0.1%(年率+0.3%)と予測します。

2018年10-12月期の実質GDPは、季節調整済前期比+0.1%(年率+0.3%)と、2四半期ぶりのプラス成長を予測する。7-9月期に相次いだ自然災害からの回復は見られたものの、外需環境の悪化が重石となり、小幅のプラス成長にとどまるとみられる。

消費は、消費者マインドが悪化傾向にあるものの、雇用・所得環境の改善継続や7-9月期の自然災害による悪影響のはく落により、同+0.5%と増加を予測する。設備投資は、情報化投資や自動化・省力化投資などに対するニーズの強さを背景に、同+1.5%と予想する。一方、公的固定資本形成は、12月にはやや持ち直しの動きが見られたものの、10-12月期としては同▲0.3%と6四半期連続のマイナスを見込む。

輸出は、自然災害によるサプライチェーンへの影響はほぼ解消されたものの、中国経済を中心とする外需の減速や半導体関連需要の調整局面入りが下押し圧力となり、同+0.6%と弱めの伸びを予測する。輸入は、内需の持ち直しを背景に同+3.1%と増加を予想する。結果として、外需の寄与度は▲0.4%pと3四半期連続のマイナスを見込む。

表 2018年10-12月期 GDP速報 予測結果

単位：断りがない限り 季調済前期比(%)		2018年			
		1-3月期 実績	4-6月期 実績	7-9月期 実績	10-12月期 予測
実質GDP	季調済前期比年率	▲ 0.3 (▲1.3)	0.7 (2.8)	▲ 0.6 (▲2.5)	0.1 (0.3)
民間最終消費		▲ 0.3	0.7	▲ 0.2	0.5
民間住宅投資		▲ 2.1	▲ 1.9	0.7	0.3
民間企業設備投資		0.4	2.8	▲ 2.8	1.5
民間在庫	寄与度	▲ 0.2	0.0	0.0	▲ 0.0
政府最終消費		0.2	0.1	0.2	0.1
公的固定資本形成		▲ 0.5	▲ 0.5	▲ 2.0	▲ 0.3
財・サービス輸出		0.5	0.3	▲ 1.8	0.6
財・サービス輸入		0.2	1.0	▲ 1.4	3.1
内需	寄与度	▲ 0.4	0.8	▲ 0.6	0.5
民需	寄与度	▲ 0.4	0.8	▲ 0.5	0.5
公需	寄与度	0.0	▲ 0.0	▲ 0.1	0.0
外需	寄与度	0.1	▲ 0.1	▲ 0.1	▲ 0.4
名目GDP	季調済前期比年率	▲ 0.6 (▲2.2)	0.5 (2.1)	▲ 0.7 (▲2.7)	0.0 (0.1)
GDPデフレーター	前年同期比	0.5	0.0	▲ 0.3	▲ 0.3
国内需要デフレーター	前年同期比	0.9	0.5	0.7	0.5

注：表中の実績値は、2018年7-9月期2次QEに基づく。シャドー部分が今回の予測値。  
出所：実績は内閣府「国民経済計算」、予測は三菱総合研究所

本件に関するお問い合わせ先

株式会社三菱総合研究所  
〒100-8141 東京都千代田区永田町二丁目 10 番 3 号

【内容に関するお問い合わせ】

政策・経済研究センター 森重彰浩 田中康就  
電話:03-6858-2717 メール:macro-ml@mri.co.jp

【取材に関するお問い合わせ】

広報部  
電話:03-6705-6000 メール:media@mri.co.jp

本資料は、内閣府記者クラブおよび当社にてコンタクトのある記者の方々にもご案内しております。